

はじめに 「歴史総合」について

1.対象とする授業と生徒

この教材は、日本語力がまだ十分ではない外国にルーツのある生徒のために、高校地歴科必修科目「歴史総合」の「取り出し授業」で使用する目的で作成しました。

「取り出し授業」で教えるにあたっては、生徒の現状を考慮して様々な工夫が必要です。「取り出し授業」の実践を踏まえて、以下に具体的に検討します。

2.歴史総合の「取り出し授業」にあたって検討すべきこと

(1)「歴史総合」の性格

「歴史総合」は、①近現代の歴史の変化に関わる事象を、②世界と其中的の日本を広く相互的な視野で、③現代的な諸課題の形成に関わる観点から学ぶ科目です。

さらに「日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情」を深める科目と位置付けられています。学習方法においては、「主体的・対話的で深い学び」が強調されています。

(2)「取り出し授業」での困難点

この「歴史総合」を、日本語を母語としない生徒のための「取り出し授業」で扱うにあたっては、多くの壁や困難があります。以下、4点にまとめます。

①日本の中学校の歴史学習の知識がない。

中学校時に来日した生徒にとって、中学校の歴史の授業は日本語が大変難しく、前提となる社会文化的背景も異なるため、たとえ教室にいたとしても、自身の学びにできなかった生徒が多くいます。また、母国の中学校を卒業して来日した生徒は、日本史の知識がほぼないと考えていいと思います。自国の歴史は学んだ経験があっても、世界史は学んでいない生徒も多くいます。

しかし、基礎的な歴史知識を授業で扱うことは、「歴史総合」の目的ではなく、時間的な余裕ありません。したがって、何らかの方法で、基礎的な歴史知識を補充することを考えなければならないと考えます。

②教科書を読みとり、対話的に学ぶための日本語力が不足している。

歴史の授業で、授業者が授業で用いる日本語は、生徒たちが獲得してきた日本語の語彙や文法の範囲を大きく超えています。漢字をほとんど学んでいない生徒もいます。授業の日本語を聞き取ることも、教科書の内容を理解することも大変困難です。ましてや、問題発見や解を見出し、深い対話をするための日本語力には遠く及びません。

したがって、「取り出し授業」では、高校生としての学びを達成することを目標にしつ

つも、極力やさしい日本語を使って、学びの負担を軽減し、また写真・図表などの視覚情報を活用して、言語に依存しなくても理解できる工夫が必要になります。

③-1 母語や得意言語の力を活用することができる生徒とは？

滞日年数が短い生徒は、学年相応の母語力をもっていることが多いです。多様な母語の生徒がともに学ぶ「取り出し授業」では、共通言語として日本語を使いつつも、歴史の学びの達成のために、可能な部分では、母語を活用することも方策の一つです。例えば、母語を使って内容をまとめたり、意見を書いたりすることもできます。同じ母語で日本語力が高い生徒が通訳として支援したり、ICT機器を活用して機械翻訳を活用することもできます。

③-2 母語や得意言語の力を活用することが難しい生徒とは？

ただし、年少期、小学生の時期など、母語を完全に習得する前に来日した生徒たちは、高校の学習に使えるだけの母語の力を獲得していないことが多くあります。歴史の学習で使う用語は、母国の学校で学んでいなければ、母語でも知らないことが多くあります。「翻訳すればいい」と早計に判断できないことがあります。こうした生徒たちには、あくまで平易な、いわゆる「やさしい日本語」で具体的に説明することが必要になります。

④ 独自のカリキュラム・デザイン、カリキュラム・マネジメントが必要

日本語力や既有知識の違いを考慮した「取り出し授業」は、在籍学級と同じテンポで授業を進めることは不可能です。「歴史総合」の科目の趣旨に沿って、近現代史の大きな流れを捉えることを目標におきつつ、授業で扱う幅と深さを精選・調整しなければなりません。

生徒たちが学んだことがない単元については、中学校の学習に戻って基本的事項を追加し、逆に日本人ではないのだから、それほど詳しく知っていなくてもいいだろうと判断できれば省略するなど、調整が必要になります。

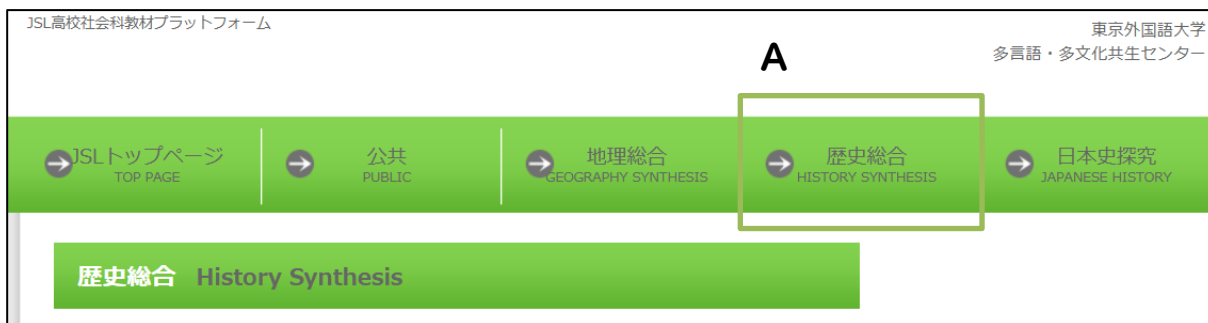
現代史の単元では、加害・被害の関係にあったアジア諸国出身の生徒も多いです。彼らには「日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情」を求めるのではなく、生徒たちのアイデンティティを尊重することが必要です。

生徒たちの状況を見て、彼らにとって最も有益な学びは何かを配慮しつつ、独自の年間指導計画や評価基準を認めていくことが、重要であると考えます。

3. 本教材で提供・提案していること

(0) 本教材の提供方法

本教材は、東京外国語大学 多言語多文化センターのホームページよりダウンロードできます。「歴史総合」のタブ(A) をクリックして、教材一覧の項目(B) をクリックすると、PDFファイルの教材がダウンロードできます。次ページより、「教材一覧」掲載の教材の概要について、ご説明します。



教材一覧			
	単元	番号	項目 クリックしてダウンロード
0	はじめに	0-1	歴史総合について
		0-2	動画の活用方法 (6)
		0-3	基礎知識 B
I	市民革命	歴 I-1	学ぶにあたって (1)
		歴 I-2.1	テキスト
		歴 I-2.2	予習プリント
		歴 I-2.3	予習プリント 答え入り (2)
		歴 I-3.1	ワークシート
		歴 I-3.2	ワークシート 答え入り (3)-1
		歴 I-4.1	資料を読みとろう
		歴 I-4.2	資料を読みとろう 答え入り (3)-2
		歴 I-5	漢字テスト (4)
		歴 I-6.1	重要語句説明
		歴 I-6.2	確認テスト (5)

(1) 学ぶにあたって

該当の単元の作成意図や注意点などを記してあります。「V 世界恐慌・ファシズム」では用意した教材の使い方の流れが分かる説明を付け加えてありますので、参考になさってください。

(2) 予習教材—「2.1 テキスト」「2.2 予習プリント」「2.3 予習プリント_答え入り」

生徒たちの既習知識には差があります。生徒たちの基本理解を揃えるために、中学校の歴史教科書に基づいて、「やさしい日本語」による「テキスト」（ルビ・英語訳付き）を作成しました。授業の前に、それを読んで、予習プリントに解答します。

授業前に基本知識を確認し、そこから新しい学習に進めるようにしました。

英語以外の言語が必要な生徒は、スマホのカメラ入力機械翻訳をお使いください。英語版から、翻訳する方が精度が高くなります。

(3) -1. 授業用教材—「3.1 ワークシート」「3.2 ワークシート_答え入り」

- ①このワークシートが授業の進行の役目を担っています。「V 世界恐慌・ファシズム」の單元には教師が授業で必要となる情報をまとめてありますので、参考になさってください。
- ②本教材のワークシートで取り上げた事項の内容は、各社の教科書を参照し、どの教科書にも記述があることだけ取り上げました。一部の詳しい教科書にだけある記述は省いています。
- ③教科書によって、單元ごとに求める「探求課題」は異なります。本教材のワークシートでは、この単元で考えてほしい最も基本的な課題を「考えよう」として掲げました。ワークシートの最後に、まとめとして、各自が課題について理解できたことを、日本語や得意言語でまとめます。授業担当の先生が知らない言語の場合も、スマホのカメラ入力機械翻訳で読み取ることができます。
- ④教科書の説明で用いられている表現で理解が困難だと思われる場合は、「やさしい日本語」に変えています。
- ⑤漢字にはルビを振り、意味を確認するための英語（一部、中国語訳あり）を加えています。漢字が読めない生徒がいることを前提に、簡単な漢字にもルビを振ってあります。本教材を参考に独自の教材を用意される場合は、それぞれの授業に参加する生徒の日本語レベルに応じて、ルビや補助の外国を調整することをお勧めします。
- ⑥生徒たちは人名・地名の区別がつけにくいです。本教材のワークシートでは、人名は青字にしてあります。黒字の固有名詞は地名を表しています。人名には人型アイコンをつけるなどの工夫が必要かもしれません。
- ⑦内容をわかりやすくするために、表、図示、図解を加えました。
- ⑧ワークシートは授業の中で、先生と対話しつつ、基本事項を書き込むように（ ）を設けています。先生用の解答入りワークシートには英語を加えました。必要に応じてご活

用ください。

(3)-2.授業用教材―「4.1資料を読み取ろう」「4.2資料を読み取ろう_答え入り」

- ①写真・図表・地図の読み取りなどが、「主体的・対話的な学び」のキーになることが多くあります。各単元に、資料の読み取り教材を用意しました。日本語力の不十分さを補う工夫をすることで、こうした活動も可能になります。
- ②日本語だけでは、何を示す資料なのかわかりません。まず、読み取りの支援として、史資料の中に出てくる文字のルビと意味、英語訳などをつけました。
- ③資料から読み取った内容を発表するときに、日本語の表現がわからないことがよくあります。そのため、()に読み取った語句を入れれば発表ができるような、日本語の支援を加えました。
- ④授業で使用している教科書の資料に合わせて、先生方が教材を作成することがもっとも望ましいと考えます。その際に、こうした工夫をしていただければ活発な教室活動が可能になります。

(4)「5.漢字テスト」

- ①本教材の「3-1.ワークシート」の下線部分は、この「5.漢字テスト」に出題されることを表しています。漢字の読み書きができることは教科の学習には非常に重要で、漢字そのものの学習を進めることも必要です。しかし、教科学習の文脈を離れた単純な漢字ドリルでは定着が困難で、しかも歴史の学習で使う漢字語彙は、いわゆる漢字ドリルにはなかなか出てきません。そこで歴史を学ぶと同時に、学びに必要な漢字の意味と読みを毎回練習し、次の授業の初めに「小」テストとして行っています。
- ②漢字の練習をしやすいするために、あらかじめテスト用紙と同じ形式でルビを振った解答を用意しました。解答には、テストで取り上げる漢字以外にもルビをつけました。これを使って自分で漢字の学習を進めることもできます。
- ③生徒たちには「漢字クイズ解答」をスマホに写真で取り込み、通学の時間や空き時間に見て覚えるように促しています。
- ④漢字解答のルビ振りの注意
 - ・ルビは単漢字ごとに振る。(漢字になじみがない生徒は「^れき^し 歴^れき^し 史」を「歴^れき^し 史」と書く間違いも生じます)
 - ・生徒はルビを読んで学習します。本教材を参考に、先生ご自身が漢字テストを作成される場合は、ルビのポイントを大きくすると、濁点の有無、拗音・撥音等小さい文字の判別がしやすくなります。

(5)「6-1.重要語句説明」「6-2.確認テスト」

- ①生徒たちが意味を理解することが必要な歴史用語について、「重要語句説明」を作成しました。歴史用語は授業以外の生活では使用頻度が低く、生徒たちは授業の中

で、耳で聞くだけでは意味がすぐに思い出せないこともよくあります。授業で出てくるたびに意味の確認にご使用ください。前の単元で取り上げた「重要語句」も、繰り返し載せました。授業で使用するMicrosoft PowerPoint等のスライド資料に加えておくと便利です。

- ②できるだけやさしい日本語で作成しましたが、歴史的事項の説明は正確さを要するため、あまり簡単な日本語にはできないものもあります。そのため、ルビ付き日本語と合わせて、英語・中国語版を作成しました。各自の得意な言語なら理解は容易になります。
- ③1単元では「重要語句」の数は多くありませんが、定期考査の機会に、それまでに学んだ「重要語句」の理解をまとめてチェックすることもできます。
- ④重要語句を覚えたか、説明することができるか、教師・生徒が確認できるよう、「確認テスト」を3種類用意しました。
 - ・確認テスト（1）日本語初級者向け
説明を読んで該当する語の記号（ア、イ、ウなど）を書く形式。
カタカナは、自分の名前以外読めない、書けないことが多いため、カタカナに触れる機会が少しでも増えるよう、記号は、a, b, cなどではなく、カタカナにしました。
 - ・「確認テスト（2）」 日本語中級者向け
説明を読んで、該当する重要語句を書く形式。
 - ・「確認テスト（3）」 日本語上級者向け
重要語句を見て、説明を日本語で書く形式。生徒の得意な言語で書いてもよいが、英語以外の場合、内容が正しいかどうか、教師がチェックするには、翻訳ソフトにかけるといったステップが必要となる。

（6）教育動画教材—NHK高校講座の動画の活用

- ①生徒たちがわからないことにぶつかった時、自分の母語で情報検索すればいろいろ調べることができます。しかし、各言語で提供されている歴史情報は、かなり解釈や内容が異なり、いろいろな地域出身の生徒がともに学ぶ「歴史総合」の授業の予習・復習にうまく使えるわけではありません。
- ②一方、日本のネット上にはたくさんの教育動画がありますが、日本語が母語でない生徒が見たり聞いたりするだけですぐに理解できるものはほとんどありません。
- ③そこで、生徒の得意言語を活用して学べる動画としてNHK高校講座を紹介します。NHK高校講座「歴史総合」を各生徒の得意言語を活用して学習する方法については、「はじめに-0-2 動画の活用方法」をご覧ください。
- ④生徒の母語や得意な言語で動画を使って学ぶ方法を、学期の初めの段階で生徒に紹介し、たとえば最初の「産業革命」で試してみるといいと思います。同じ方法で、その先の単元を生徒が自分で学んでいくことができます。

- ⑤NHK「高校講座」はみな同じ「つくり」になっているので、「歴史総合」だけではなく、「地理総合」「公共」さらに、理科、保健、数学、国語など、各科目も同じ方法で生徒が自力で予習・復習をすることができます。高校の学びを助ける有益なツールです。

4. 本教材以外に授業で必要となるその他の教材・教具

①提示用の画像を用意する

授業では、課題把握のためにMicrosoft PowerPointなどのスライドで画像提示をすると、大変有効です。お使いの教科書・資料集などをご活用ください。なお、本教材で、出典を示してある写真や図などは、出典元より掲載の許諾をいただいたものです。出典を示していないイラストは、この教材のため、特別に作成しました。

授業用に作成したスライドは、TEAMS等で生徒に共有し、予習・復習ができるようにしておくといでしょう。

②地図帳・白地図を用意する

世界の国々や地域の日本語の呼称が母語の発音とかけ離れていると、生徒たちは戸惑うことがよくあります。また、世界地理の学習が不十分で、国の位置が把握できていない生徒もよくいます。

そこで、「はじめに0-3基礎知識」に、よく使う日本語の地名表記の学習を用意しました。学習の初めに使うといでしょう。また、学習に登場する国や地域は、その都度白地図に書き込み、定期考査に出題して知識の定着を促すようにしています。

- ③日本の地名は知らないことが前提です。今居住している自治体が日本地図のどこにあるかさえ知らないことが多いです。地方名、都道府県名にルビがついた大きめの日本地図をあらかじめ生徒に配付し、日本の地名が出てくるたびに地図で位置と読み方を確認する配慮が必要です。

5. おわりに

外国にルーツをもつ生徒たちは、みな親の都合で日本に暮らすことになった生徒たちです。母国では普通に学んできたのに、日本に来たことで日本語の大きなハンディを背負うことになってしまいました。そうした生徒たちにとって、特性に配慮した「取り出し授業」は、高校の学びの生命線です。工夫をすれば十分に学ぶ力と意欲をもつ生徒たちです。彼らの学びを保障するために、先生方も知恵と工夫を結集して生徒たちを応援したいと思います。よろしくお願いいたします。